

PAT-NO: JP359010807A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 59010807 A

TITLE: SIMPLE SEISMOMETER IN COMMON USE AS ELECTROACOUSTIC
LEVEL

PUBN-DATE: January 20, 1984

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
ANDO, HISAO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
ANDO HISAO	N/A

APPL-NO: JP56174890

APPL-DATE: October 30, 1981

INT-CL (IPC): G01C009/12, G01H001/00

US-CL-CURRENT: 33/1BB, 33/283

ABSTRACT:

PURPOSE: To expand the performance and application range of a level by performing visually and aurally vertical and inclination inspections using a plumb bob by a light emitting element and a photoelectric element.

CONSTITUTION: A magnet or light emitting element is provided to a weight 3 or pointer 3' of a pendulum supported by the fulcrum 2 on a plate 1 having an electromagnetical or photoelectrical switch part on the front face and a contact type inspection face on the side face respectively. A protractor scale centering at the fulcrum 2 is provided on the front face of the plate 1 opposite to the magnet or to the light emitting element and 1 piece of magneto-sensitive elements or photoelectric elements 4 are mounted on the main scale thereof. The sound specific to a switching position is generated from an electronic circuit 5 by the switching with oscillation.

COPYRIGHT: (C)1984,JPO&Japio

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—10807

⑪ Int. Cl.³
G 01 C 9/12
G 01 H 1/00

識別記号

庁内整理番号
6960—2F
6860—2G

⑬ 公開 昭和59年(1984)1月20日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 電子音響式水準計兼簡易地震計

⑯ 発明者 安藤久夫

桑名市尾野山 8 の 1

⑰ 特 願 昭56—174890

⑱ 出 願 人 安藤久夫

桑名市尾野山 8 の 1

⑲ 出 願 昭56(1981)10月30日

明細書の序言(内容に変更なし)
明 細 書

1. 発明の名称

電子音響式水準計兼簡易地震計

2. 特許請求の範囲

(1) 電磁的または光電的スイッチ部を前面に、検
知式検査面を後面にもつ板(1)上の支点(2)で支えた
振子の重錘(3)または指針(3)に磁石または発光素子
を付し、板(1)前面の磁石対応部または発光素子対
応部に支点(2)を中心とする分度器目線を付すと共
に、その主目線上に1個以上の磁気感応素子または
発光素子(4)を設け、振動に伴うスイッチングに
より電子回路(5)からスイッチング位置特有の音を
発するよう構成の音響式水準計で測距と逆の素子
判別装置配置を含む。

(2) 上記構成の水準計の上座または下座の検知式
水準検査面長手方向と平行の回転軸をもって回転
し得る平板(6)を補助的検査板としてもつ水準計。

(3) 上記(1)に示す装置の水平検査用圧面を直交さ
せて2台連結し、傾斜に伴う発振音を400ヘル
ツ前後音により前後左右あるいは東西南北に分

別距離し電波変換も可能の測距計兼簡易地震計。

[4] 上記(1)の測距盤として用い、また電磁的のバ
ランスを見る指針部に簡易磁石し得る図巧を付し
た、セフト式素子群をもつ音響式測距計。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、これまで視覚にのみ頼つた下げ振りに
よる磁気・傾斜検査法を視覚的にしてその応用
範囲を拡大するものである。

従来、土木建築、軌道測定、振動検査、秤量等
に於ける水準器が用いられてきたが、その殆んど
は視覚型で夜間・暗所・目の届かぬ所の測定とか
リモートコントロールには不向きであつた。

この改良としての本発明の一実施例を図説する
と、図1の(1)は前面を音響発振用スイッチング部
、後面を磁気式検査面とする平板で、その上の支
点(2)で支えた振子の重錘(3)の中央部に磁石をつけ
、板(1)前面の磁石対応部に分度器目線を廻りとも
び(1)前面のリードスイッチを(4)の位置に、中立点
に対し左右対称につけた。付属電子回路は図2の
如くで図上のスイッチ1とスイッチ2が実施例で

はリードスイッチに当り、机などの被検物に当該装置の底面を水平に置く時磁石は2個のリードスイッチの中間にあり消音しないが、静かに磁石を振らせれば、ビー、ポーの2音がくりかえしリズムカナルに発振する。もし水平でなければリードスイッチの一方に磁石が接近するから発する音に特徴が出てくる。

これによる机の面などの水平度検査は板(1)の底面、柱の垂直検査は板(1)の側面(但し板(1)が矩形のとき)、脚等などの高所の水平検査には上底面を接触し、上述の発振具合で判定する。

更に中立点にもう1ヶのリードスイッチ挿入し例えばアー音を発振するようにすれば、発振音はビー、ポー、ボアの繰返しとなり、より判定容易となる。そして被検物を始めば磁気素子を半導体とし、磁石は電磁石とし出来るだけ薄い磁性板をもつて磁気素子に接近させねばならない。時によつては磁石と素子を順逆と逆に配置する場合もある。よつて前記請求範囲に記した次第である。

次に傾斜測定用としては、各角度目盛に水平を

として1°~2°おきといった細かい測定が無理な点とである。そこで比較的あらゐ(5°、10°おきの)音響発振(例えばドレミ...)と細かい角度間隔の発振(例えばビ、ブ、ボの発振音)を器具2台を並列において同時発振させることで解決する。あるいは精密発振型素子を簡易装飾板(クリップ両面テープ、マジックテープ貼り)で主目盛上の適所にはりつけ二種の発振音で判別してもよい。

第3図は、その目的の簡易セット型の素子群の原理図でト図(7)の凹み部にマジックテープ貼りとする。(よつて主目盛上にもマジックテープ貼り部を要するが省略。)

この装置は単独に用いて、例えば物理天秤の水準を指針で見る時、その指針の目盛面に設置して音でバランスを知ることに応用できる。よつてこれを請求範囲(4)に記した。

又この考え方で夜間作業、高所作業、リモコンによる作業容易となり、主・副(精密)二種の目盛板を組みセットし特徴ある音の発振で指定角度に材料セットすること可能となる。

被検しドレミファ...音を出し、中立点の右・左でオクターブを受えたとよい。この音階は可聴範囲で数多くとれるから種々の応用が考えられるがここでは前記(1)の請求範囲に掲げた装置の水平検査用底面を直交させ2個組合わせ一体化し、発振音を400Hzステレオ発振し、また音波変換し得る機軸を有するものを請求範囲(3)に提案する。これはそのまま簡易法の水平動地設計となし得る。但しこのとき巨大共振を用い倒立振子とするから磁石は指針部に接触することもある。よつてその音階請求範囲に記し、原理図を図4に示した。

元来、測定具には超精密型と共に簡易普及型の開発が必要。もしこの簡易型地設計を要所に備えれば送信、受信可能とすれば400Hz録音器でかなりきま細かい傾斜の正振動情報を捉え得、研究に生かし得るし、又遊離管線放送に利用し得る。その場合、如何なる角度間隔に素子を配置すべきかは今後の研究にまち、ここでは原理的斜視図を3図に示した。

次の問題は、この種の素子を利用する装置の常

最後に天体カメラ撮影時、カメラの水平を保持する目的で生じた案を述べる。従来の遠望撮影では余程大なる三脚を使わねば限りカメラフィルムは横方向を水平に保つこと困難。既製の視覚的水準器を用いても仰角大なるカメラの水準測定は難しく、夜間使用時とかファインダー注視に集中する時、水準維持に意を使うは不能に近かった。そこで請求範囲(2)に示す如く傾斜計の水準検査面長手方向と回転軸平行の補助検査板(4)をカメラの水準を保ちたとき顔と異なる面にとりつけば第5図の如く水準器の板(1)は自重のため(または追加した重量により)鉛直に垂れ下がり、よつて表面の発振素子が水準の点か否かを報知する。これによつて観測極めて簡便化する。

以上の記述は磁気素子を中心に述べたが、光電素子を用いた場合も考え方は全く同じである。よつて詳しい記述を省略する。

4. 図面の簡単な説明

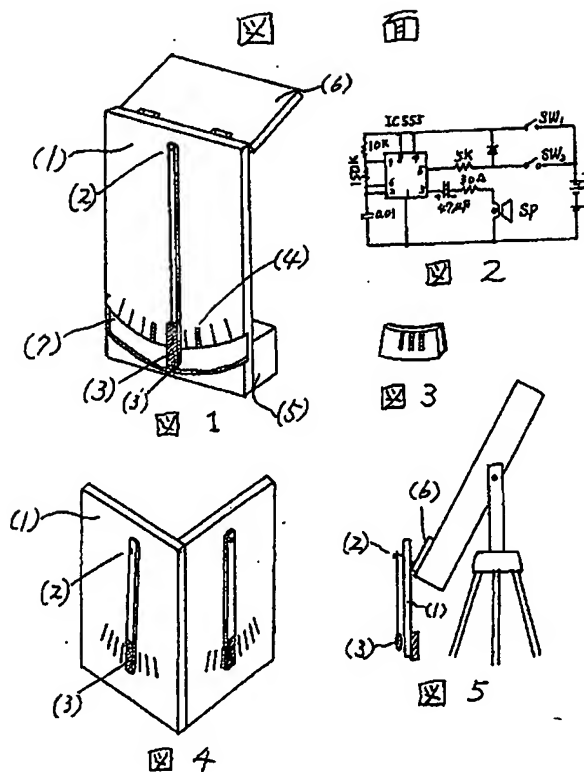
第1図は磁気素子を用いる実施第1例の斜視図で(1)は板(前面)、(2)支点、(3)重錘、(4)指針、(5)リ

ードスイッチ、電子音響発振器は(5)でその回路は第2図。また第3図は第1図の回み部(7)にはめこみマシクテープ接版して目盛を精密化するための湖目盛の一例。

兼水平動地線計

第4図は直交配置型の傾斜計(原理図)。第5図は顕微カメラに図1に示す傾斜計を板(6)をもつて装増したところである。(図4・5共に番号(1)、(2)・・は第1図と共通する)

特許出願人 安 藤 久 夫



手 続 補 正 書 (方 式)
昭和58年8月18日
昭和58年8月20日發出

特許庁長官殿

引 件 の 表 示

昭和56年 特許願第174890号


発 明 の 名 称

電子音響式水準計兼簡易地震計

補 正 を す る 案

事件との関係 特許出願人

住 所 桑名市尾野山八の一

氏 名 アン ドウ ビツ 夫 
補正命令の日付 昭和58年6月15日

補正の対象

願書及び明細書

補正の内容

1. 発明の名称を 電子音響式水準計兼簡易
地震計と補正する。

2. 願書及び明細書の淨書(内容に変更なし)